

民報 ゆうばり 第2回「党後援会のつどい」開催 第5回南空知1市4町トラックキャラバン実施



南幌町 A コープ前

後援会の集い開催

9月22日日本共産党随北地域後援会のつどいが21名の参加で開催されました。世話人の筒井勇治さんの挨拶のあと、日本共産党96周年記念講演DVDを視聴しました。

日本共産党が、どのように国民が平和で安心の日本をめざしているかがわかりました。



休憩をはさみ、くまがい市議が市政報告後、参加者との懇談では9月5日の台風と6日の震度4の地震が話題になりました。避難場所わからない、情報がないなど高齢者の切実な発言が多くされました。その中でも停電で不安な夜を過ごしたみなさんも、酪農家の牛の乳房炎、牛乳が捨てられた話には心を痛めていました。

また、高校生が安否確認したり、近所の人が発電機でまわりを照らしてくれた話にゆうばりの人の優しさを感じました。

最後に来年の地方選、参議院選で共産党を躍進させようと思いを共有させ、つどいをおえました。(参加者投稿=T・A)

順に、Gブラザーズ & シスターズによる憲法ソングとスピーチによるアピール行動を行いました。「個人の尊重と平

明に発生した地震の被災地対応等で、社

改憲より防災を！ 兵器より災害補償を！

9月17日、「戦争法・共謀罪法廃止！安倍改憲NO！南空知1市4町の会」で、5回目となるトラックキャラバンが開催され、南幌、長沼、由仁、栗山、夕張の

張で熊谷市議がスピーチをしました。南幌Aコープ前を10時スタート。長沼、由仁、栗山、最終地



夕張ニコット店前

第30回夕張労連

定期大会開催

9月16日(日)旧夕張小学校の「らぷらす」において、夕張労働組合総連合(夕張労連)の第30回定期大会が開催されました。

大会挨拶に立った筒井労連議長は情勢の特徴として「安倍政権のたび重なる悪法の強行採決は国民不在の政治でこれ以上続けさせるわけにはいかない」と強調しました。さらに「政府・財界が富裕層1%への富の集中をすすめる中で、格差と貧困を拡大させ、自己責任の押し付けで分断攻撃を巧妙に浸透させて、労働者が団結しないように仕向けている。これによって職場での労働組合活動や組織拡大が思うように進んでいない状況がある」と指摘しました。



道的な停電により通信手段が全壊している中、議会情報やネット情報から水道、電気、交通等の情報を「熊谷桂子の市議会レポート」として発行し、後援会関係者と連携して配布したことを報告しました。また、今回の災害を教訓として市民の安全対策に今後も取り組んでゆくことを約束しました。道労連から出口事務局長が参加し連帯の挨拶をしました。大会の議事は提案された活動方針を採択、次年度の役員を選出して終了しました。

くずさんの夕張歴史散歩(96)

明治維新「堀基」と北炭 ⑦ 13

問題は、新会社の北炭が利子補給を受けている半官の会社であり、その経営管理は全て道庁の下にあって、計画変更は事前の許可を要しました。それを怠ったのです。鉄道敷設の指揮監督は、道庁の斡旋を受けて派遣されていた松本庄一郎技師だったので、事後承認でも大丈夫と安易に構えていたのです。

首相は山県に変わっていた

しかし時すでに、山県有朋(長州藩出身)首相に代わり、かねてから薩摩閥の横暴に業を煮やしてきた政府は黙っていません。早速これを問題化し追及します。内務大臣品川弥二郎(長州藩出身)は、永山武四郎北海道庁長官を早々に更迭しています。代わる新長官に滋賀県知事だった渡辺千秋を起用しています。

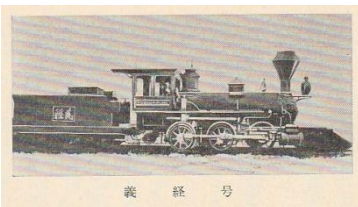
渡辺は、早くも道庁に巢食う薩摩閥の一掃にかかります。世論もいっせいに、国家から厚い保護を受けている会社が、勝手に路線を変更したと非難。国会でも取り上げられ、ついに政治問題にまで発展しました。

慌てて堀は、下野している黒田清隆に泣きつきまします。が、なす術すでになく、さしもの堀基も辞職に追い込まれ、ついに失脚してしまします。

路線変更は

ところで問題の路線変更は、鉄道長官井上勝が来道して実状を調査します。その結果、事前の許可を取らなかつたのは会社の失策だが、路線変更は妥当とします。なんのことはない、堀の追い落とし劇でした。

ここに變更された追分を起点とした夕張線43号は、1892(明治25)年11月1日に開通、当日「義経号」が黒煙を吐きつつ石炭を運んでいったのです。



写真：「北炭七十年史」より



岩渕友「国会かけある記」参議院議員

岩渕友

今こそエネルギー転換へ

日本共産党国会議員団福島チームの調査で福島県いわき市へ足を運びました。実は、いわき市は母の実家があり、子どもの頃は家族で海水浴によく出かけていました。「砂浜が見えないほど賑わっていた海水浴場が、原発事故後、10人から15人しかいないという日もある」。こう話をしてくれたのは、海水浴場の側にある旅館のご主人でした。「夏の1カ月半で、1年の7、8割の収入になつていった。今は1割しかない」とのこと。ある旅館のご主人は、「『常磐もの』といわれる魚介類を使った夕食を提供することができなくなつて客が減り、朝食のみの提供に切りかえてなんとか営業している」と悔しそうに話してくれました。

ところが東京電力は、「原発事故の影響はなくなつてきている」と、損害賠償に応じない姿勢に固執しています。「加害者が『時間が経ったから賠償をやめます』なんて常識では考えられない。のど元過ぎればどうでもいいのか」「どこでも努力をしている。欲しいのは賠償じゃなくて客なんだ」、当然の怒りです。国と東京電力にその責任を果たせと、さらに強く迫らなくてはならないと決意しています。

今回の北海道地震をうけて、泊原発が稼働していたらと思うとゾッとします。集いなどで、原発ゼロとあわせて、「電力は一極集中ではなく、地域分散型に切りかえる必要がある」と話すと、みなさんが大きく頷きます。今こそエネルギー転換に舵を切るべきです。私も大いに訴えていきたいと思ひます。